

2014年6月13日

北総線高運賃問題で京成の責任を問う

北総線の運賃値下げを実現する会

4月17日、北総鉄道が2015年4月以降の北総線運賃を提示しましたが、依然として高運賃は少しも是正されていません。

私たち北実会は、これまでも京成の責任で運賃問題を解決することを求めてきましたが、森田知事が京成本社へ行き、花田京成電鉄会長が応答して、来年4月以降の北総線運賃を決めたという事実は、北総線高運賃に対する京成の責任は免れないことを京成自身が証明したものとなっています。京成電鉄は、公共鉄道の社会性に鑑み、北総鉄道の親会社として、直ちに北総線の高運賃を是正する責任を果たすように、改めて求めるものです。

4月17日の北総の提示は、私たちが主張してきた、自助努力での運賃値下げができることを示したものであり、その意味では、「儲かっている会社に市民の税金を投入するわけにはいかない」という印西・白井両市長の毅然とした態度が京成を譲歩させたものとして大きな意義があります。そして京成は、4月10日づけの北総鉄道名の文書で、県と沿線自治体にたいし無条件の自力値下げを明示していました。ところが、千葉県は北総への貸付金で新たな支援を申し出で、さらに、白井市長が先頭に立った耐震補強工事補助の協議を進めるなど、大きな問題点を含むものとなっています。

京成電鉄は、北総鉄道から多額の利益移転(成田空港線の線路使用料を事実上支払わない、千葉ニュータウン鉄道(小室～印旛日本医大)を通じて北総の利益を吸い上げている)をしています。それにも関わらず、北総は、大手民鉄の平均利益率13%に対し、30%超の利益率であるほどの高運賃なのです。

私たち沿線住民は、これまでに十分運賃負担をしてきました。もうこれ以上高運賃を払わなければならない合理的理由はありません。あるのは京成という私企業がそのエゴのために、子会社の北総や千葉ニュータウン鉄道を操作して利権を手放さないということだけなのです。そういう京成に対して千葉県が指導するどころか、言われるがままになっているのでは、県民を裏切るものと言わざるをえません。

北総鉄道には自力で運賃値下げする力が十分あります。利益率を他私鉄並の13%にするだけで30億円もの原資ができます。利益移転分も含めれば、京成本線並の運賃にすることができます。

今回の3.4%値下げ案は、県と京成トップの間で基本合意されました。北総運賃の決定権が京成にあることは、議論の余地がありません。改めて、京成の責任で、北総線の高運賃を是正することを求めるものです。

(詳しくは別ファイル「平成27年4月1日以降の北総運賃と耐震補助等に係る見解」をご参照ください)

以上